

教 授 会 議 事 録

日 時：平成 19 年 3 月 13 日（火）14 時 05 分から 15 時 42 分

場 所：電気通信研究所大会議室

出席者：議長（所長）他教授 21 名、助教授 14 名

議事録の確認

平成 19 年 2 月 13 日（火）開催の定例教授会議事録について、原案のとおり承認した。

I. 報告事項

1. 学内外諸会議等報告

(1) 教育研究評議会

3 月 6 日に開催された教育研究評議会において、井上プラン（骨子案）の説明並びに議論を行ったとの報告があった。

(2) 部局長連絡会議

所長から、2 月 23 日に開催された部局長連絡会議について、下記の報告があった。

- ① 平成 17 年度決算剰余金の繰越について
- ② 平成 18 年度第 3 回総長裁量経費の配分について
- ③ 東北大学と DOWA ホールディングス株式会社との連携協力について
- ④ 内部監査報告（文書決裁）について
- ⑤ 100 周年記念事業・募金について
- ⑥ 平成 19 年度科学研究費補助金応募状況について
- ⑦ 東北大学の ISI ランキングについて
- ⑧ 平成 18 年度東北大学総長教育賞について
- ⑨ 東北大学機関リポジトリ TOUR への学位論文登録について
- ⑩ 「知の世紀」グローバル・サミットについて
- ⑪ 世界トップレベル研究拠点の構築について
- ⑫ 飲酒運転について
- ⑬ 助教の大学院博士課程担当手当について

2. 運営会議等報告

(1) 研究企画戦略室

地域イノベーション創出総合支援事業（JST）重点地域研究開発推進プログラム 平成 19 年度「シーズ発掘試験」新規課題募集について、産学官連携推進本部から 3 月 20 日（火）締切りで再度募集があったので応募願いたいとの依頼があった。また、別ルートで申請している場合は、研究協力係にお知らせ願いたいとの付言があった。

(2) 安全衛生委員会

2 月 27 日に開催した安全衛生委員会について、下記の報告があった。

- ① 過去に粗大ゴミ搬出時に 1 号館玄関のガラスを破損する事故があったので、今年度末の粗大ゴミ搬出に向けて危険回避のため 1 号館にスロープを設置することとしたので、十分注意してほしいこと。また、ゴミの捨て方に関しては、再三、注意しているがボンベ等の危険物も捨てられていることもあるので、学生には厳重に注意してほしいこと。
- ② 2 月の本会議でお知らせした長時間労働者に対する面接指導については、庶務係に申し出ること

としたこと。また、対象者には裁量労働制対象の教員も含まれていることから、勤務時間の把握方法については、手帳やパソコン等により自主的に記録したものを面談時の判断資料とできるので、証拠として残しておいてほしいこと。

- ③ AED（自動体外式除細動器）の設置について、検討していること。
- ④ 平成 19 年度から薬品管理システムを本格稼働する予定で進んでおり、現在、薬品のデータベースを整備しており、稼働の際には安全衛生管理室から通知すること。なお、導入された場合は、各研究室にバーコード読取装置を準備することとなること。
- ⑤ 危険な低圧分電盤へのカバー等設置工事が完了したこと。
- ⑥ 退職される教員の研究室の廃液等危険物の処理については、退職教員の責任で行うこととし、衛生管理者が立会うこと。また、処分費用についても退職教員が措置してほしいこと。

(3) 研究基盤技術センター

平成 19 年 4 月 1 日から発足する研究基盤技術センターの四つの部への職員の配置について、報告があった。

(4) 学部教務委員会

2 月 27 日に開催された系内学部教務委員会の通研関連事項について、配付資料により報告があった。特に、追加配属の方針について、過年度学生がいる研究室へは原則として配属しないこととなっているが、1 名までは受け入れてほしいこと。また、今年度卒業できない学生が 48 名おり、そのうち 1 名が通研の配属学生であるとの付言があった。

3. その他

(1) 職員及び学生の受賞について

議長から、配付資料に基づき、職員及び学生の受賞について報告があった。

(2) 民間等との共同研究の受入れについて

議長から、配付資料に基づき、民間等との共同研究の受入れについて報告があった。

(3) 受託研究員の受入れについて

議長から、配付資料に基づき、受託研究員の受入れについて報告があった。

(4) 研究所等研究生の受入れについて

議長から、配付資料に基づき、研究所等研究生の受入れについて報告があった。

(5) 内閣府 政策統括官（科学技術政策担当）付 上席政策調査員の推薦について

議長から、内閣府 政策統括官（科学技術政策担当）付 上席政策調査員として総合科学技術会議事務局へ派遣報告があった。

(6) 中国科学院半導体研究所との部局間学術交流協定について

2 月の本会議で締結が承認された中国科学院半導体研究所との部局間学術交流協定の協定書について、配付資料に基づき説明があった。

(7) 平成 19 年度過半数代表者について

総務課長から、平成 19 年度過半数代表者について、決定した旨の報告があった。

(8) 平成 19 年度東北大学職員登用試験について

総務課長から、平成 19 年度から本学の准職員等を対象に、新たに実施することとなった東北大学職員登用試験について説明があった。

II. 協議事項

1. 准教授人事について

(1) やわらかい情報システム研究センター

やわらかい情報システム研究センター准教授の選考をしたい旨の提案があり、承認した。

なお、選考委員会委員については、やわらかい情報システム研究センター運営委員会が兼ねる旨の提案があり、承認した。

(2) ブロードバンド工学研究部門 情報ストレージシステム研究分野

人事委員会委員長から、IT-21 センターストレージ分野 助教授が平成 19 年 3 月 31 日で任期満了となることから、4 月 1 日付けで情報ストレージシステム研究分野の准教授として配置換することとしたいとの提案があり、承認した。なお、10 月から開始予定の新規プロジェクトに参画していただくこととなっているとの付言があった。

2. 名誉教授の推薦について

議長から、名誉教授の称号授与について、配付資料に基づき説明があり、承認した。

3. 助教の任用について

議長から、助教の任用について、配付資料に基づき説明及び提案があり、承認した。

4. 教員の辞職について

議長から、教員の辞職について、配付資料に基づき説明があり、承認した。

5. 研究支援者の任用について

議長から、配付資料に基づき、研究支援者の任用について提案があり、承認した。

6. IT-21 センター新規プロジェクトについて

IT-21 センター運営委員会委員長から、IT-21 センター新規プロジェクトとして、2 月末締切りで募集していた産学連携体制による新規プロジェクトに応募のあった 2 件について、配付資料に基づき提案があり、種々審議した結果、承認した。

7. 共同プロジェクト研究の採択について

共同プロジェクト実施委員会委員から、配付資料に基づき、平成 19 年度通研共同プロジェクト研究について提案があり、承認した。

8. ナノ・スピン実験施設移転検討委員会の設置について

議長から、第 1 区分で移転しない研究室の検討及び確定、並びに、その後統合するための通研の方針を審議するために、ナノ・スピン実験施設移転検討委員会を設置したいとの提案があり、承認した。

引き続き、委員会委員の構成について、提案があり承認した。

9. 通研移転対応プロジェクト委員会委員の追加について

議長から、学内委員会として平成 19 年 4 月から新キャンパス整備専門委員会が立ち上がる関係と、現委員を、内閣府 政策統括官（科学技術政策担当）付 上席政策調査員として総合科学技術会議事務局へ派遣することとしたため、委員を追加したいとの提案があり、承認した。

10. 委員会等委員の選出について

議長から、配付資料に基づき、委員会等委員について説明があり、承認した。

11. 教員の兼務について

議長から、平成 19 年度前期学生実験指導のための教員の兼務について、配付資料に基づき説明があ

り、承認した。

12. その他

(1) 副所長の指名について

次期研究所長から、次期副研究所長候補者の指名及び提案があり、承認した。

(2) 科学研究費補助金に係る不正防止のための措置について

経理課長から、科学研究費補助金に係る不正防止のための措置について、配付資料に基づき説明があり、承認した。なお、所内の説明会を開催する予定であるとの付言があった。

III. その他

(1) 平成 19 年 4 月からの職名について

議長から、平成 19 年 4 月 1 日からの教員組織の新制度導入にあたって、職名が現在の助教授から准教授に、助手が助教に変更になること及び、そのことに伴った人事異動通知書は交付されないとの報告があった。

(2) 「RIEC リエゾンフォーラム」について

2 月 23 日（金）にナノ・スピ棟 4 階カンファレンスルームで開催した RIEC リエゾンフォーラムについて、今回は通研と NEC の研究者が講演会とパネルディスカッションという形で実施したとの報告があった。

所長からは、今後の通研版リエゾンプログラム立ち上げについて、少なくとももう一度フォーラムを開催しつつ、参加企業からの意見・希望を参考に RIEC リエゾンプログラムの先行例を立ち上げて行きたいと考えているとの報告があった。

また、リエゾンプログラムの仕組みがよく分からないとの質問があり、所長から、MIT のインダストリアルリエゾンプログラム（ILP）やスタンフォード大学のインダストリアルアフィリエイトプログラムの紹介があり、通研でまず進めるとすれば、スタンフォードの形がよいのではないかと思うが、いずれにしても、これから、通研版リエゾンプログラムの仕組みをつくっていききたいとの発言があった。

なお、リエゾンプログラムの実施については、企業からのメンバーシップフィーを活用して専任の担当者を雇用するなどの措置をとり、個人の研究者に負担をかけないように、組織として責任を持って行いたいとの付言があった。

(3) 「教授」の呼称を用いている職種の形態について

総務課長から、配付資料に基づき、「教授」の呼称を用いている職種の形態について、説明があった。

(4) 平成 18 年度決算会計実地検査について

経理課長から、会計検査院による平成 18 年度決算会計実地検査が、4 月 9 日（月）～13 日（金）に実施されることの報告及び協力依頼があった。

(5) 退職者からの挨拶について

3 月 31 日付けの定年退職者から挨拶があった。引き続き、所長から、退任及び定年退職の挨拶があった。

(6) 次回の開催について

平成 19 年 4 月 10 日（火）14 : 00 から開催することとした。